

研究主題 地域と連携した起業家教育

－ くにたちをビジネスの教材として活用 －

I 研究の目的

東京都では、平成30年度より商業教育改革として、全ての都立商業高校をビジネス科へ改編し、東京都が作成した補助教材「東京のビジネス」の活用、学校設定科目「ビジネスアイデア」の履修、さらに、外部連携を積極的に行う「課題研究」を推進している。今年度、東京都商業教育研究会の物品販売支援事業を活用して、3年生の課題研究において、地域連携学習として、国立駅改札前に店舗を運営する機会をいただいた。

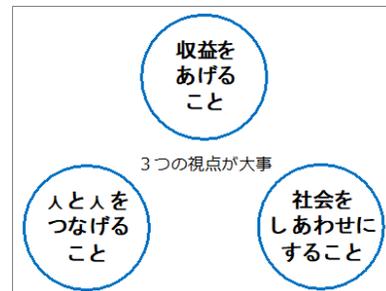
本研究は、第五商業から国立ブランドの価値向上を目指した起業家教育により、地域ビジネスを実践的に学び、ビジネスに関する課題を自ら設定し、その解決を図る学習を深め、産業界が求める創造的な能力や実践的な態度の習得を目指している。

II 研究の方法

1. 科目名 3年生 課題研究 「 起業探究 -五商ショップ- 」
これまで学習した商業科目の知識と技術を活用し、実際に店舗を運営することで、自発的に課題を見つけ、解決する力を身に付ける講座である。
2. 身に付ける力
起業家精神を育みながら、地域社会に積極的に参加する意欲や態度を身に付ける。また、東京都国立市のブランド価値向上という課題をビジネスの視点から考え、課題を解決する力と、全国へ発信する力を養う。

III 研究内容 | 第五商業で地域ビジネスをはじめ

1. ビジネスとは何か考える。
まず、課題研究を始めるに当たって、1年次ビジネス基礎で学んだビジネスに大切な3つの視点について振り返った。
東京のビジネスを学んだ生徒たちだったので、こうしたビジネスの視点について生徒たちの理解が早いと感じた。



2. イベント企画会社として活動する。
この授業をチームとして活動するために、イベント企画会社という想定で1年間活動することにした。これによりチームの目的や目標の達成に向かって、各メンバーが主体的に能力を発揮しながら一丸となるチームを目指す取り組みがしやすいと考えた。
3. チームビルディング
チームの目標の達成に向かって、メンバーが主体的に能力を発揮しながら、一丸となるチームを目指すことでメンバーの性格を理解する。課題研究チームで力を入れてきたことは、近年のビジネスで注目されている「チームビルディング」を学ぶことであった。
4. ヘリウムリングでメンバーを理解
フラフープを人差し指に乗せて離れないようにフラフープを下げる、というシンプルなルールの活動である。指がラフープから離れていないか、第一関節以外の部分でフラフープを触れてしまった人はいないか注目して、発見した場合は最初の高さまで戻すように促す。
この活動から、生徒たちはうまくいかなかった理由や改善策を話し合い、互いの性格を理解し、認め合おうとする態度が見られた。



ミーティングの様子

【令和4年度東京都教育委員会研究推進団体 東京都商業教育研究会】

5. 4つの地域連携活動

国立市と北海道松前町について行った事前調査活動では、統計情報システムRESASを活用して、データを分析し、地域の課題を出し合った。

(1) 国立谷保商店街と一橋大学との連携 | フィールドワーク

地元の一橋大学の学生たちが運営しているNPO法人くにたち富士見台人間環境キーステーションは、国立谷保商店街で実店舗の運営を行っている。こちらに協力を仰ぎながら、谷保駅周辺でインタビューを行い、地域の課題を見付けていった。

当日は、教員は引率せず、活動の内容を Teams のチャット機能でリアルタイムに写真とともに報告させた。

(2) 北海道松前高校との連携 | オンライン会議

今回のイベントは、国立市が桜の町とよばれることから「くにたち=桜」のイメージをより多くの人々に定着させることをテーマとした。そこで、百貨店などで絶大のブランド力をほこる北海道のなかで、桜の町として有名な松前町から商品を仕入・販売することを計画した。仕入れにあたっては、地元の高校である、北海道松前高校に協力していただいた。事前にメールなどでやりとりしながら、Teams を活用してオンライン会議を開いて打合せを進めた。



(3) 次年度に向けて | 株式会社美鈴コーヒーと連携したコーヒー開発

次年度も継続して行うために、2年生が中心となって、株式会社美鈴コーヒーと連携してオリジナルブレンドコーヒーを開発した。

生徒たちは夏休みを利用して、コーヒーマイスター3級を取得して、コーヒーに関する基礎知識を習得しながら、商品開発を進めていった。



(4) 国立駅との連携 | 販売活動

令和5年1月21日(土)に、国立駅に相談して、国立駅改札前の催事スペースに、出店することを許可していただいた。出店に関わる契約や出店料の交渉など、生徒たちが数回にわたり国立駅の担当者と打ち合わせながら出店準備を進めていった。

(下図)国立駅に提出した企画書

IV 研究の成果

2学期以降は、自分たちの店を国立市のために運営したいという気持ちが強くなり、教員が指示を出さなくても週3時間の授業が生徒だけで進められた。1月21日の販売実習までのカレンダーを生徒たちが自ら作成してスケジュール管理をし、教員が事前に企業に連絡することなく放課後谷保商店街のパン屋に相談に行くようになるなど、主体的に行動する場面が多く見られるようになった。

<連絡先>

団体名		東京都商業教育研究会
代表者	所属	東京都立大田桜台高等学校
	職氏名	校長 石山 智典
	連絡先	03-6303-7980
事務局	所属	東京都立第五商業高等学校
	職氏名	主任教諭 会津 拓也
	連絡先	042-572-0132